



第 31 回

高知県理学療法学会



テーマ：「地域包括ケアを考える～高知で生きる～」

会期：平成 30 年 2 月 18 日（日）

会場：黒潮町ふるさと総合センター

高知県幡多郡黒潮町入野 176-2

TEL：0880-43-3369

主催：公益社団法人高知県理学療法士協会

第 31 回 高知県理学療法学会 開催にあたり

学会長 米津 小巻

早春の候、会員に皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

第 31 回高知県理学療法学会の開催にあたりご挨拶申し上げます。

昭和 40 年、理学療法士及び作業療法士法が施行された年、100 歳以上人口は 198 人でした（100 歳以上人口の統計が始まったのが昭和 38 年）。昭和 56 年に 1000 人を越え、介護保険法が制定された平成 9 年の翌年、平成 10 年に 1 万人を越えました。近年では、3 年に 1 万人の割合で増え、平成 29 年 9 月には 7 万人を越え、第 1 回人生 100 年時代構想会議が開催されました。翌 10 月には、「一億総活躍社会実現、その本丸は人づくり。子供たちの誰もが経済事情にかかわらず夢に向かって頑張ることができる社会。いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会。人生 100 年時代を見据えた経済社会の在り方を構想していきます。」という、人生 100 年時代構想が発表されました。つまり、いかに健康寿命を延ばしていくかが喫緊の課題になっていることを示唆しており、この発表を受け、人生設計の見直し、建て直しをしないといけない、と思いました。

今回の学会テーマは、「地域包括ケアを考える ～高知で生きる～」です。まさに、人生 100 年時代を先駆けている県の一つである高知県において、病気をせず、認知症にならず、天寿を全うする、これは県民の願いであり、国の目指す方向と一致します。全ての人々が病気、障害を避けることはできませんが、疾病予防、介護予防の意識を持つことは、元気高齢者が増えることに繋がります。その時、地域で支えていく仕組み、地域との連携、元気高齢者が活躍する地域作りに、理学療法士が専門職としてどのように関わっていけばよいのか、全国各地で地域包括ケアに関する講演をされている、大分県作業療法協会副会長である佐藤孝臣先生にご講演いただきます。又、教育セミナーでは、横浜市立大学附属市民総合医療センターの若林秀隆先生に、理学療法を進めていく中で欠かせないリハビリテーション栄養についてご講演頂き、介護予防に活かす考え方を学んで頂きたいと思っています。

一般演題は、20 題となりました。様々なテーマの臨床、研究報告があります。人間関係の希薄化は、対人援助職である私たちの中にも広がっていますが、活発な意見交換と交流がなされ、本学会に参加し、是非、新たな繋がりを築いて頂きたいと思っています。多くの皆様の参加をお待ちしております。

ご挨拶

公益社団法人
高知県理学療法士協会
会長 宮本 謙三

第31回高知県理学療法学会を開催するにあたり、準備に携わってこられた米津小巻学会長（筒井病院）をはじめ準備委員の皆さんに心より御礼を申し上げます。

今回の学会は、幡多地域（ブロック）である黒潮町において開催されます。高知県は県土が東西に長く、人口も理学療法士も高知市に一極集中しており、理学療法に関する情報提供や研修機会等の会員サービスに地域格差を生じないように、県協会としても努力しているところです。これまで各ブロックでの組織作りを進めてきた結果、ブロック活動も徐々に活性化されてきたように思います。その一つの形が、このたびの幡多地域での学会開催であり、会員の絆を広げる意味でも大変意義深いことと言えます。

そして、学会テーマは「地域包括ケアを考える ～高知で生きる～」であります。高知県の少子高齢化は全国に先んじて進展していますが、なかでも中山間村での高齢化は大きな社会的課題となっています。国の進める「地域包括ケアシステム」の具体像は、地域の実情に即して展開されるといわれますが、その目指す実像は今もって明確ではありません。理学療法士協会は地域包括ケアを推進すべく人材育成を始めていますが、地域のなかで理学療法士はどのように活躍できるのか、どんな役割が期待されているのか。その方向性や可能性を大いに議論いただき、高齢化先進県から全国に先駆けた発信をお願いしたいと思います。

「地域を共に支える」という国民的課題は、理学療法士からの視点からでは克服できるものではありません。しかし、リハビリテーション専門職への期待は大きく、我々の職域としても確固たるものを築いて行かなければなりません。地域で、臨床で、日々実践しておられる皆さんの活発な意見交換をお願いし、実りある学会になりますよう期待しまして、ご挨拶といたします。

学会日程

会 期：平成30年2月18日（日）

テーマ：「地域包括ケアを考える～高知で生きる～」

会 場：黒潮町 ふるさと総合センター（高知県幡多郡黒潮町入野 176-2 番地）

受 付：ロビー

第1会場：大ホール

第2会場：多目的室

	第1会場 大ホール	第2会場 多目的室
9:30	受付	
10:00	開会式	
10:15	壇上設営	
10:20	一般演題 ＜神経系＞ 演題1～5	一般演題 ＜生活支援系＞ 演題6～10
11:10	休憩	
11:20	特別講演	
12:20	昼休憩	
13:20	次期学会長挨拶	
13:30	教育セミナー	
15:00	休憩	
15:10	一般演題 ＜神経系・内部障害系＞ 演題11～15	一般演題 ＜運動器系・基礎系＞ 演題16～20
16:05	閉会式	

参加者へのお知らせ

1. 会場整理費について

下記の会場整理費を学会当日受付にてお支払い下さい。

①会員 2,000円 ②会員外 3,000円 ③学生 無料

2. 受付について

①受付は午前9時30分より入り口正面の受付・総合案内にて開始します。

②日本理学療法士協会の会員証による会員証明・参加受付・ポイント管理を導入しております。

会員の方は会員証にて受付を行いますので、必ずご持参下さい。

③受付はそれぞれの該当受付で手続きをお済ませ下さい。

④会場整理費納入時にネームカードをお渡ししますので所属と氏名をご記入の上確認できる場所にお付け下さい。

3. 会場内での留意点

①会場内でのお尋ね・お呼び出し等は「受付」でお申し付け下さい。

②喫煙は所定の場所にてお願いします。

③第1、第2会場内では携帯電話の使用はご遠慮下さい。

④本抄録集は、会員の方には当日用意しておりませんので、必ずご持参下さい。

4. 駐車場について

会場駐車場をご利用下さい。第1駐車場が満車の時は、第2駐車場をご利用下さい。係員が、案内します。

5. 昼食について

会場周辺には、食事をする施設がありませんので、昼食を事前に用意することをお勧めいたします。なお当日、総合案内・受付にて、お弁当の注文が可能です。事前申し込みで、締め切りは10時30分までとなりますのでご利用下さい。

お弁当の事前申し込みをされた方は、昼休憩の際に、総合案内・受付でお弁当をお渡しいたします。

会場での飲食は、昼休憩時のみ**第2会場**で**飲食可能**です。

6. その他

防災備蓄缶詰の試食、販売を予定しています。7大アレルギーに対応しています。被災時のみでなく、日常でも美味しく食べられる缶詰です。

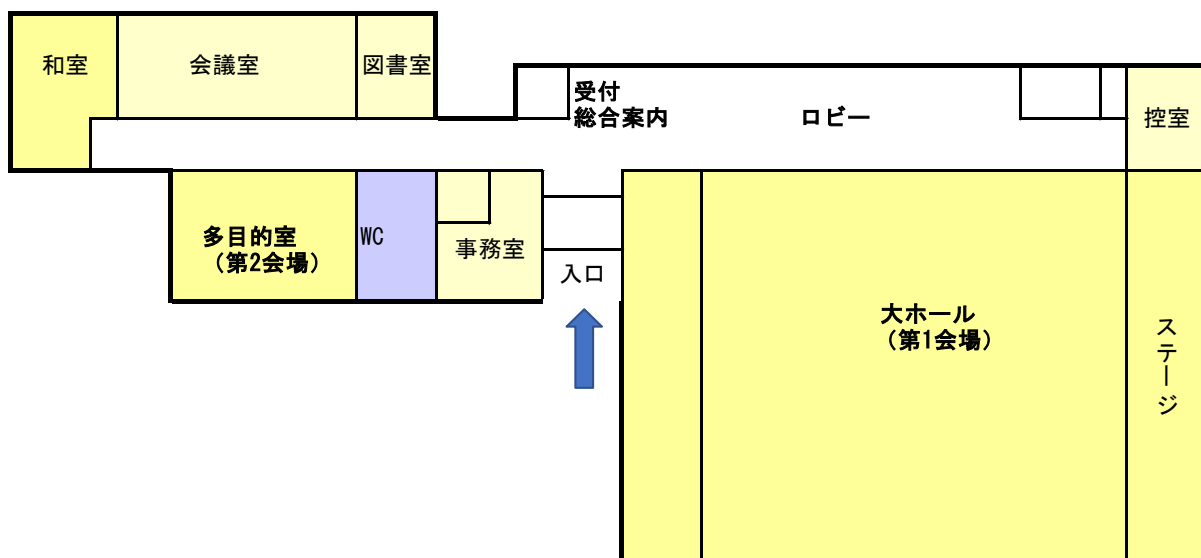
演者へのお知らせ

1. 一般演題の発表時間は7分以内です。時間厳守をお願いします。
2. 発表形式は Microsoft Power Point (Windows 版) による PC 発表のみとなっております。
ファイルの作成にあたっては、必ずページ設定を「画面に合わせる」にしてください。また可能な限り Power Point での事前動作確認をお願いします。
3. 枚数は特に定めておりません。
4. 当日提出していただくメディアは USB フラッシュメモリのみとします。必ず演題番号・演題名をプレゼンテーションファイル名としてください。
5. プレゼンテーションファイルの受付は「演者受付」にて行って下さい。なお、発表者のみ、午前8時45分より受付を開始いたします。動作確認は発表会場にて演者自らが行って下さい。
6. 演者は発表セッション開始15分前までに、次演者席にお着き下さい。
7. プレゼンテーションファイルの操作は演者自らが行って下さい。
8. 「PC 受付」での動作確認後に USB フラッシュメモリは返却いたしますが、不慮のアクシデントに備え、会場内ではバックアップデータとして演者自身が携行してください。
9. PC に取り込んだデータは、主催者側で責任をもって管理し、発表後には消去いたします。

座長（司会）へのお知らせ

1. 座長受付を設けております。そちらで受付をお済ませください。
2. セッション開始予定の15分前までに次座長席にお着き下さい。
3. ご担当の時間内で、活発な討議が行われるようお取り計らい下さい。

会場案内



<第1会場 大ホール>

10:20~11:10 一般演題1~5 神経系

座長 池 雅道 先生 (幡多けんみん病院)

1. 脳性まひ児への静的ストレッチの即時効果

—立ち上がり動作に着目して—

高知県立療育福祉センター 榎尾 晋

2. 脳梗塞再発後の歩行時に出現していたつまずきの改善を目指して

—要求した単関節運動が困難であった症例—

愛宕病院 松本 真維

3. 半年前の右視床及び延髄部の脳出血により立脚期に側方動揺を呈した症例

—足底圧の認識と体幹の協調的な運動に着目した症例—

愛宕病院 山下 翔二

4. 早期離床が効果的であった一症例

—脳室内ドレナージを留置した視床出血患者—

高知大学医学部附属病院 山本 龍

5. 認知運動課題にてclaw toeによる痛みの軽減と身体認識の変化が認められた一症例

訪問看護ステーションげいせい 山中 遼平

11:20~12:20

特別講演 「地域包括ケアシステムを考える」

講師 株式会社ライフリー 佐藤 孝臣 先生

司会 筒井病院 米津 小巻 学会長

13:20~13:30

次期学会長挨拶 第32回高知県理学療法学会学会長 高知医療学院 八坂 一彦 先生

13:30~15:00

教育セミナー [介護予防に活かすリハ栄養]

—理学療法士に期待すること—

講師 横浜市立大学附属市民総合医療センター

リハビリテーション科 講師 若林 秀隆 先生

司会 くぼかわ病院 東 大和生 先生

15：10～16：00 一般演題 11～15 神経系・内部障害系

座長 中川 圭子 先生 (南国病院)

11. Pusher 現象を呈した重症片麻痺患者に対する立位練習
高知リハビリテーション学院 山崎 裕司
12. 脳卒中患者に対する発症後 48 時間以内の起立訓練は
安全かつ直接嚙下訓練開始までの期間を短縮させる
高知大学医学部附属病院 小川 真輝
13. 意識障害患者に対する理学療法の一考察
高知大学医学部附属病院 片田 秦椰
14. 当院におけるがん患者リハビリテーションの現状と今後の課題
くぼかわ病院 中山 剛
15. 活動量計を用いたモニタリングにより運動耐容能向上を認めた症例
高知大学医学部附属病院 前田 貴之

<第2会場 多目的室>

10：20～11：10 一般演題 6～10 生活支援系

座長 江渕 聡 先生 (土佐市地域包括支援センター)

6. 介護予防訪問リハビリテーションを経験して
－「見える化」に着目した関わりの有効性－
竹本病院 白石 翔人
7. 当院での免荷式リフト POPO REH-100 を使用しての取り組み
－地域包括ケア病床での介入報告－
森下病院 西山 武
8. 二重課題下での立位バランストレーニングを行ったことにより
転倒リスクの軽減に繋がった症例
愛宕病院 森岡 祐子
9. 運動イメージ能力と転倒歴・転倒不安感の関連について
だいいちリハビリテーション病院 中澤 伸哲
10. 慢性痛患者における運動習慣とフレイルの関係性
だいいちリハビリテーション病院 田中 彩花

15:10～16:00 一般演題 16～20 運動器系・基礎系

座長 山内 直人 先生 (竹本病院)

16. TKA 術後患者に対する Icing の治療効果は痛みの情動が関与する

高知大学医学部附属病院 近藤 寛

17. 受傷後 10 年経過した肩関節周囲炎患者へのリハビリテーション

—運動学習による代償運動の軽減に着目して—

芸西病院 小松 勝人

18. 腱板断裂患者の挙上能力の程度と僧帽筋断面積について

高知県立あき総合病院 島岡 秀奉

19. 痛み治療における快刺激の有効性

高知大学医学部附属病院 小田 翔太

20. 同側性骨盤歩きと対側性骨盤歩きの比較

だいいちリハビリテーション病院 澤田 純

会場周辺地図

